

血液が汚れば、健康も末病に、末病も病気に 冠元顆粒で血液をサラサラに

ストレスの標的は「肝」

「病は気から」と言われるように、中医学では精神的ストレスの人体への影響を重視しています。最も敏感に反応するのは五臓六腑の中でも「肝（かん）」です。肝には「血を蔵し、気をスムーズにめぐらす」働きがあります。つまり、血液の貯蔵庫であり血液量を調整する臓器なのです。さらに全身を巡る気の運行を調整する働きもあります。

血と気は二人三脚のような関係で全身を回っています。血は気の力によって全身をめぐり、気は血からそのエネルギーを得ており、両者が協力しあって生理機能を維持しています。ストレスによって肝の機能が低下してくると気の流れが滞り、本来はサラサラと流れなければならぬ血液にも影響が出てきます。血の滞りは「瘀血（おけつ）」と呼ばれて様々な病気の原因となります。

最もよく見られる肝の病態に、気分のイライラや不眠などの精神状態が特徴となる「肝鬱気滞（かんうつきたい）」があります。肝鬱気滞の状態では自律神経機能の障害が認められ、さらに交感神経の興奮が多く見られています。ストレスなどで交感神経が高ぶると副腎からアドレナリンの分泌が多くなりますが、この

ホルモンは血小板を固まりやすくするところが分かっています。血小板が固まりやすくなると血管中に血栓のできる可能性が高くなり、脳血栓や心筋梗塞のリスクが高まります。

瘀血予防は食事の見直しから

瘀血のもう一つの要因は食事です。過食は肥満と血液中の脂質であるコレステロールと中性脂肪を増やし、動脈硬化の原因となります。中医学では消化（代謝）でできなかった余分な食べ物は脂濁（しだく）となって体内に残り、津液（しんえき、必要な水分）とともに痰湿（たんじつ、余分な水分）となって血流を阻害し瘀血の原因になると考えています。脂濁とは西洋医学でのコレステロールや中性脂肪に相当し血管の内壁に付着して血栓を作ります。一方、食事の摂取不足や偏食も栄養不良を招き、瘀血の原因となります。気血を作りだす栄養物質の不足から気血両虚（きけつりょうじょ）となり血液を運行させる力が低下して瘀血となります。

現代の研究によると血液中の微量元素（ミネラル）、特に銅、クロム、亜鉛などが減少すると動脈硬化や心臓・脳血管病になりやすいことがわかっています。血行改善の作用を持った漢方生薬の丹参（タンジン）・红花（コウカ）・セネキユウなどにはこれらの微量元素が含まれ

ています。

今回おすすめる丹参製剤には血液をサラサラにする作用があります。冠状動脈内の固まった血（血栓）を溶かし、血流の滞りを解消します。また、心臓の血管はもちろん、脳の血管や末梢の毛細血管まで血流の滞りに優れた効果があります。つまり急性期にも慢性期にも、そして予防にも効果を発揮することができるのです。

ストレスの予防と正しい食事を心がけることで瘀血は改善することが可能です。また、その改善のお手伝いに丹参製剤をご利用いただくことで速効性も期待できます。

- ・イスクラ産業「冠元顆粒」
- 九〇包入り 一三、二五〇円
- 四五包入り 七、〇三五円
- 二一包入り 三、五〇〇円



「冠元顆粒」についてのご相談・質問は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております。

「健康的にダイエット！」なら「マイクロダイエット」をお試しください

マイクロダイエット正規取扱店 **ゆがの薬局**

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150

当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>

